

2024年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅠ 必修 講義		講 師	遠藤 祐太郎
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 クラス活動①			
	3 コミュニケーションプログラム担当:三浦さなえ			
	4 クラス活動②			
	5 クラス活動③			
	6 産学連携			
	7 クラス活動④			
	8 クラス活動⑤			
	9 クラス活動⑥			
	10 クラス活動⑦			
	11 クラス活動⑧			
	12 産学連携			
	13 クラス活動⑨			
	14 クラス活動⑩			
	15 クラス活動⑪			
	16 オリエンテーション			
	17 クラス活動⑫			
	18 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう			
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか 課題提出			
	20 クラス活動⑬			
	21 産学連携			
	22 就職にむけて(1)担当就職相談室			
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代			
	24 就職に向けて(2)担当就職相談室			
	25 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	26 クラス活動⑭			
	27 産学連携			
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃			
	29 クラス活動⑮			
	30 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	遠藤祐太郎:実務経験のある教員による授業に該当。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科 目	保育と外国語		必修 講義	講 師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話の習得 英語の絵本の読み聞かせに慣れ親しむ 英語の歌と手遊びに慣れ親しむ 初対面の英会話の体験 Show and Tellスキルの体験				
授業目標	保育現場で使われる様々な英語表現をアクティビティを通して習得する。 保育現場で使える手遊びを実演しながら慣れ親しむ。 英会話の基本である初対面会話を実演しながら習得する。 Show and Tell をグループワークで体験する。 英語の絵本を様々なツールを介して慣れ親しむ。				
到達目標1	現場で使える必要最低限の英語表現を使えるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験(50%)		
到達目標2	基本的な初対面英会話と言えるようになる。 現場で使えるアクティビティ体験し、活かせるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	オーラル試験 初対面会話(15%) 発表 自己紹介(15%) 提出物 ミニ絵本 (5%) 絵本 (15%)		
授業方法	保育で活用できる実践的英語の基礎知識を学習。 ・保育現場のシチュエーションに合わせた英語のコミュニケーション学習 ・幼児の英語を使った指導に使える基礎知識(歌、絵本の読み聞かせ、Show and Tell)				
授業計画	1 コミュニケーションキー うた、褒め言葉、励まし言葉、自己紹介				
	2 幼保英語検定 初対面会話				
	3 Halloween 保育で使う公園での会話				
	4 世界のBENTO 保育で使う食事の時の会話				
	5 レポートのサポート				
	6 産業連携				
	7 世界のトイレ 保育で使うトイレと身支度の会話				
	8 Valentines 保育で使うその他の場面の会話				
	9 Christmas 総合復習				
	10 筆記試験				
	11 レポートのサポート				
	12 産業連携				
	13 絵本の読み聞かせ				
	14 外国語				
	15 外国語				
必須テキスト	専用テキスト1冊 English for Use in Nursery Schools 保育園・幼稚園の先生に役立つ英語				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	小学校、中学校アメリカにて就学 高校インターナショナルにて就学 [専門指導分野/指導年数] 幼児英語/20年、児童英語/40年、中高英語/30年、一般英語/30年、ビジネス英語/20年、英検/30年				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	

	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %
--	---------	------	----------	------

2024年度 講義要綱

科 目	体育講義		必修 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。				
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。				
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(30点)		
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点)チームで協力する姿勢を見せる(30点)		
授業方法	講義形式、グループワーク・トーキング(GW)、DVD視聴、実技体験				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？				
	2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技				
	3 幼児体育の意義と社会的背景とは？				
	4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技				
	5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー<DVD視聴>				
	6 産学連携				
	7 リズムダンス遊び※実技				
	8 健康観の変遷				
	9 体育、幼児体育の歴史的変遷				
	10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導				
	11 健康とは何かを問い直す<DVD視聴>				
	12 産学連携				
	13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴				
	14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？				
	15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	必修 体育実技 講義			講 師	菊池 一英
授業概要	保育現場での体育(幼児体育)実技指導の導入ー展開ーまとめの方法とスキルを身に付けます。また、同時に遊具の安全管理についても学びます。				
授業目標	様々なバリエーションの実技を実際に行ってみて、保育現場で応用できる、実践力を習得する。				
到達目標1	保育場面を想定して、実技指導内容をプレゼンテーションができるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	体育実技への取り組みの貢献度(30点)実技指導内容のプレゼン力(20点)		
到達目標2	指導内容のねらい、留意点を踏まえ、保育課程を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパーの充実度(30点)年齢発達に見合う指導内容の把握(20点)		
授業方法	実際の体育(幼児体育)実技、運動遊びを集団で経験する。また、DVD視聴で様々な保育現場での取り組みを体験する。				
授業計画	1 オリエンテーション、体育遊びへの導入ー展開(ふれあい遊び)				
	2 サーキット遊び運動遊びへの実際と方法<DVD視聴>				
	3 体育遊びへの導入ー展開と方法(まねっこ遊び)				
	4 野外での運動遊びの実際と方法(ロープワーク遊び)				
	5 ファンタジー遊びの実際と方法<DVD視聴>				
	6 産学連携				
	7 体育遊びへの導入ー展開と方法(ゲーム野外遊び)				
	8 体育遊びへの導入ー展開と方法(ジャンケン遊び)				
	9 体育遊びへの導入ー展開と方法(手遊び)				
	10 幼児体育を年間を通して展開する<ねらいとその意味>保育課程立案スキル				
	11 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？<DVD視聴>				
	12 産学連携				
	13 体育遊びへの導入ー展開と方法 造形<きのこ>とのコラボレーション				
	14 体育遊びへの導入ー展開と方法(ダンス遊び)				
	15 保育現場の運動会の実際<DVD視聴>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	日本語		必修 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(話す・書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、話し方の実技と振り返り・課題(小論文や観察記録など)・授業の振り返りのリアクションペーパー(40点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、話の聞き方の実技と振り返り(20点)、絵本の読み聞かせの実技(10点)・授業の振り返りのリアクションペーパー(10点)		
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・子どもへの話し方(1)				
	2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他)				
	3 【書】観察記録・実習日誌の書き方				
	4 【書】連絡帳の書き方				
	5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方				
	6 産学連携				
	7 【話】子どもへの話し方(2)				
	8 【話】保護者への話し方・敬語				
	9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法)				
	10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法)				
	11 【書】実習礼状などの書き方				
	12 産学連携				
	13 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)				
	14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ①				
	15 【読】絵本の読み聞かせ②				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業で適宜紹介。				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義			講 師	南部 英子
授業概要	コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワーク・セキュリティの基本的な知識を身に付ける。パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。				
授業目標	1. 日常生活を支える情報処理技術の基本的な知識を理解し、自身を守る最適な対策を選ぶことができる。 2. 保育の現場に最も身近なICT機器の1つであるパソコンを安全に効率よく使用方法を身に付ける。				
到達目標1	情報処理技術の基本知識を自分の言葉で説明できる。知識に基づき、情報化社会で直面する問題を解決するのに最適な解法を選択できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	該当授業時内容に関するまとめフォーム回答提出(20点)、情報処理技術に関するレポート提出(30点)		
到達目標2	Windowsパソコンを使い、文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題の提出(50点)		
授業方法	Windowsパソコン使用した実習。レポート添削・フィードバックあり。				
授業計画	1 オリエンテーション・情報化社会とコンピュータの発展・Windowsの基本操作				
	2 ハードウェア・ソフトウェア				
	3 情報ネットワーク				
	4 文書作成の基本①(書式設定)				
	5 インターネット				
	6 産学連携				
	7 文書作成の基本②(図形・表)				
	8 情報システムの課題				
	9 文書作成の基本③(ページ設定)・レポート課題再確認				
	10 表計算の基本①(書式設定)				
	11 情報リテラシーレポート作成・作成上の注意点など質疑応答				
	12 産学連携				
	13 表計算の基本②(計算式・関数)				
	14 表計算の基本③(グラフ・データベース)				
	15 プレゼンテーションの概要(PowerPoint基本)				
必須テキスト	『情報リテラシーと処理技術 第3版』三木紘武著 豊岡短期大学				
参考文献	授業内で適宜紹介				
担当教員の専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育原理		必修 講義	講 師	向井 優芽
授業概要	「保育とは何か」ということについて考えていきます。自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業です。 ～基本的な姿勢として～ 保育における「子ども理解」について考える				
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。				
到達目標1	1. 保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)最終回に実施予定の記述式テスト(30点) 自分の考えをわかりやすく、適切な表現で記載すること。漢字等の誤字は減点にしません、表現には気を付けること。(例えば「～させる」は望ましくない場合が多いです) (2)授業内のリアクションペーパー、ワークシート等の内容、グループワーク(GW)への達成度(20点) 量より質で評価する。「〇〇は大切だと思う」だけでなく、なぜそう考えるのかが書かれていること。加えて具体的な場面の想定、自分の経験が踏まえられているとより評価できる。		
到達目標2	2. 保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内に実施する筆記テスト(穴埋め)で漢字を含め一言一句間違えずに正答すること。(20点) (2)授業内のリアクションペーパー、ワークシート、グループワークにおいて、自分なりの理解に基づいて5領域の視点を持つこと。(30点)		
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり				
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間が余ったら、みなさんが「保育」についてどんなイメージを持っているのか、教えていただきたいと思います。 2 学校教育と保育の違いはどこにあるのでしょうか？それについて考えた上で、保育の理念や概念、子どもの最善の利益を学びます。 3 保育は保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育などがあります。それぞれの施設について知り、また保育の社会的意義についても考えてみましょう。 4 養護と教育の一体性、環境を通して行なう保育、生きる力の基礎を育むということについて学びます。養護とは何か、教育とは何か、考えてみましょう。 5 保育は子どもの育ちを支える営みです。そうした育ちを支えるためには、目の前の子どもたちが「どんな経験をすることが望ましいのか」を考え、また「どんなことが育っているか」と捉えることが大切です。そのための視点として「乳児保育の3つの視点」と「5領域」があります。その視点について考えていきましょう。 6 保育の現場で、保育とはどんな営みなのか、観察してみましょう。 7 「乳児保育の3つの視点」や「5領域」は、その子どもの発達によって、ねらいや内容が異なります。子どもの発達と合わせて、それぞれの視点について考えてみましょう。 8 「5領域」と実際の子どもの姿を重ねてみながら、どんなことが育っているのか、考えてみましょう。				

	9 保育は、「教育課程」や「全体的な計画」と言われる大きな長期的な計画から、「期案」「月案」「週案」「日案」「部分案」というような短期的な計画があります。これらは、それまでの保育施設における子どもの姿をもとに枠組みが作られ、その上で実際の子どもの姿を踏まえて、具体的な内容が記されています。そしてその子どもの姿は保育日誌等の記録に書き留められています。そうしたいわゆる”書き物”がなぜ必要なのか、考えてみましょう。				
	10 実際の保育所の月案や、幼稚園の週案を見て、保育者がどんなふうに行っているのか、どんなことに配慮しているのか、考えてみましょう。 また「月案」はクラス全体の計画ですが、乳児期の「個別記録」は子ども個人の記録になります。「個」と「集団」への配慮についても考えてみましょう。				
	11 保育所や幼稚園、こども園を卒園した子どもたちは、小学校へ就学します。小学校での生活や学びは、当然それまでの乳幼児期からの生活や育ちと連続しています。そうした保幼小の連続性を考えるために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」があります。それについて学びましょう。 ※「10の姿」は到達目標ではなく、方向目標である。				
	12 前期2回目の産学連携になります。保育の場面にかかわりながら、実際に子どもの姿やそこに関わる保育者の姿、自分の関わり方について、エピソードを書いてみましょう。				
	13 まず「子ども理解」とは何か。「子どもを理解する」と一言と言っても、それはどんな視点からの理解なのでしょう？子どもの気持ちや心を理解すること、育ちを理解すること、その両方が求められます。 子どもの「育ち」は、あくまでも子どもの「心が動く」瞬間があってこそその産物です。子どもの心が動く、つまり好奇心や探究心が芽生え、かき立てられるからこそ、もっと知りたい、やってみたい、という意欲につながっていきます。				
	14 子どもの「心が動く」瞬間を見つけ、その場に立ち会うと保育者も「たのしい」「うれしい」「おもしろい」と心が動きます。そしてそれを記録に残すことが必要なのですが、その際には、「個人」の視点と「集団」の視点から、子どもたちにどんなことが育ってきたのだろう？と振り返り、記録していくことが大切です。実際の事例から「5領域」の視点をもって子どもの育ちを捉えてみましょう。				
	15 到達目標1:文章を読み答える問題を出題予定 事前の授業内でその内容を知らせる 到達目標2:乳児保育における3つの視点と1歳以上保育における5領域に関する用語の筆記				
必須テキスト	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
参考文献	授業中に随時紹介します。				
担当教員の専門分野等	保育者の専門性、実践知、0歳児保育について特に関心があります。 保育者は保育中何を考えているのか、何を見ているのか、あるいは、何について把握しておかなければならないのか、何を意識しておかなければならないのか。 現在は、実際の子どもと保育者との相互行為における言葉にできない(言語化に至らない)専門性の研究をしています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	教育原理			必修 講義	講 師	水引 貴子
授業概要	世界の教育思想や日本の教育の歴史の変遷が、現代日本の教育や保育にどのように影響を与えているかを学び、理解する。また、現代的な課題にも目を向け、それらに保育者としてどのように向き合うのか考える姿勢を育てる。					
授業目標	1. 世界の教育思想を学び、日本への影響を理解する。 2. 日本の教育の歴史を学び、現代への流れを理解する。 3. 教育の今日的課題を捉え、自分なりの向き合い方を考える。 4. 日本の教育・保育制度の仕組みへの理解を深める。 5. 自分が理解したことや考えたことを言語化し、他人へ分かりやすく伝える。					
到達目標1	教育の歴史において重要な人物の教育思想を理解したうえで説明し、自らの保育実践にどのように活かすのかについて具体的に述べられたかを確認するために、レポート作成2回、および毎回の授業プリントへの記入、発表で評価する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		発表(10点)、レポート作成(15点×2)、授業プリントの記入(10点)		
到達目標2	言語活動を通して他者と協働して保育の現代的課題の解決に向かう姿勢が育っているかを確認するために、グループワークおよびコメントペーパーへの考察の記入で評価する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		グループワークへの貢献(30点)、毎回のリアクションペーパーへの考察記入(20点)		
授業方法	教科書およびパワーポイントを活用した講義。プリントへの記入。グループワークを行う。					
授業計画	1 オリエンテーション:授業のルールを確認 教育原理の意義					
	2 子どもの権利条約、レポート指導					
	3 子どもの貧困、レポート指導					
	4 現代の保育①外国籍の子ども					
	5 現代の保育②保育とICT					
	6 産学連携					
	7 諸外国の教育思想①コメニウス〜ペスタロッツ、レポート指導					
	8 諸外国の教育思想②フレーベル〜デューイ					
	9 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園					
	10 日本の教育思想					
	11 日本における教育の歴史の変遷					
	12 産学連携					
	13 学校制度と義務教育					
	14 学校外との連携					
	15 まとめおよび試験対策					
必須テキスト	菅原健太、伊藤美和子、渡邊舞、明日川知美『教育原理』豊岡短期大学					
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』適宜配布資料がある。					
担当教員の専門分野等	幼児教育学や教育思想史分野を中心に、子ども観研究を行っている、近年では実習担当として幼稚園実習の在り方に対する研究にも取り組んでいる。小学校での勤務経験がある。					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %		
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %		
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %		

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉		必修 講義	講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。				
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識に対して幅広く興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味) 50点		
到達目標2	子ども家庭福祉の各回のテーマで学んだ内容に対して感じたことを言語化する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回授業の終わりに小レポート(感想を含む) 50点		
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。				
授業計画	1 オリエンテーション				
	2 「子どもの権利」とは				
	3 子ども家庭福祉の歴史的展開				
	4 現代社会における「子どもと生活」				
	5 子育てをめぐる問題①				
	6 産学連携				
	7 子育てをめぐる問題②				
	8 保育サービス①				
	9 保育サービス②				
	10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは)				
	11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは)				
	12 産学連携				
	13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは)				
	14 子どもの居場所と福祉				
	15 子ども・若者の社会参加・参画				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)		
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。				
授業計画	1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念				
	2 社会福祉の歴史の変遷				
	3 子ども家庭支援と社会福祉				
	4 社会福祉の制度と法体系				
	5 社会福祉の実施機関				
	6 産学連携				
	7 社会福祉の専門職				
	8 社会保障及び関連制度の概要				
	9 相談援助の理論				
	10 相談援助の意義と機能				
	11 相談援助の対象と過程				
	12 産学連携				
	13 相談援助の方法と技術				
	14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み				
	15 今後の展望・学習のまとめ				
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅰ		必修 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。				
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)		
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)		
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。				
授業計画	1 社会的養護とは？(理念と概念)				
	2 社会的養護の歴史				
	3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割				
	4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護				
	5 施設内虐待の防止				
	6 産学連携				
	7 児童虐待				
	8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職				
	9 養護の基本原則				
	10 家庭養護				
	11 施設養護の実際(支援内容)				
	12 産学連携				
	13 施設養護とソーシャルワーク				
	14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など)				
	15 社会的養護と地域福祉、今後の展望				
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅰ」原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 講義	講 師	前川 洋子
授業概要	保育・教育現場における発達心理学の基礎的な理論及び発達を捉える視点について理解する。 乳幼児期の発達の知見に加え、子どもの学びの過程や特性について発達と学習の領域を中心に学び、子どもの育ちを支える保育・教育実践に活用する方法を習得する。		
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
到達目標1	科目の内容理解 保育実践に関わる子どもの発達理論等の基礎的な心理学知識を習得し、学びの過程や学習理論、特性について理解し説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)
到達目標2	レポート作成 こどもの発達における学びと動機づけを理解し、内発的動機づけや外発的動機づけを保育者としてどのように活用していくのかについて具体例をあげて説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、レポート(30点)
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 豊岡短大併修のレポート作成指導と科目試験対策を含む。		
授業計画	1 オリエンテーション 保育・教育心理学とは 授業展開 豊岡短期大学併修 レポート作成・試験対策について		
	2 レポート作成 子どもの学びと動機づけ(1) 動機づけ 内発的動機づけ 外発的動機づけ		
	3 レポート作成 子どもの学びと動機づけ(2) アンダーマイニング効果 自己決定理論		
	4 レポート作成 動機づけ、内発的動機づけ、外発的動機づけ 知識を保育者としてどのように活かしていくか・具体例		
	5 子どもの発達 生涯発達心理学 遺伝と環境 輻輳説 相互作用説		
	6 産学連携 子どもの発達心理をふまえて産学連携の場で学ぶ		
	7 子どもの学びと学習理論(1) 古典的条件づけ オペラント条件づけ 試行錯誤学習 洞察 観察学習		
	8 子どもの学びと学習理論(2) 知識を保育者としてどのように活かしていくか・具体例		
	9 子どもの心理発達 愛着・情緒の発達 認知発達理論(ピアジェ)		
	10 子どもの発達と心の問題 学習性無力感 配慮を必要とする子どもの発達		
	11 子どもの発達とパーソナリティ 気質 パーソナリティの諸理論		
	12 産学連携 子どもの発達心理をふまえて産学連携の場で学ぶ		
	13 豊岡短大科目試験対策(1) 学習理論 古典的条件づけ 学習指導の形態 有意味受容学習 発見学習		
	14 豊岡短大科目試験対策(2) 動機づけ 自己効力感 保育・教育現場における具体例 / 知識の活用例		

必須テキスト	稲田達也・鈴木由美 他、『教育心理学』豊岡短期大学テキスト 2023年				
参考文献	豊岡短期大学通信教育部『レポート設題集』『科目試験問題集』(令和6年度実施用)				
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員を歴任。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助		必修 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	本科目では、子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。社会的養護や障害児者支援の現場等を例に、子どもの健やかな成長のために具体的にどのような支援が存在するか理解する。				
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
到達目標1	社会的養護が必要な子ども、障害のある子どもを支える現場について説明ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	施設概要の資料作成(20点)、発表(30点)		
到達目標2	子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表についての振り返りシート(取り組み20点、内容30点)		
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴など、演習的学習を通して、保育者として子どもの状態や気持ちを想像しながら関わる力を養う。				
授業計画	1 オリエンテーション「子ども理解」とは何かを知る 2 子どもと関わる保育士の心構え 3 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども1) 4 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども2) 5 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども3) 6 産学連携 7 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども4) 8 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども5) 9 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども6) 10 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども1) 11 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども2) 12 産学連携 13 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども3) 14 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども4) 15 まとめ				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2024』全国保育士養成協議会(監修)、中央法規				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。児童養護施設や、障害児療育、カウンセリングなど様々な支援現場に入ってきました。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	35 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの保健		必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。				
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験50点		
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(課題、リアクションペーパーなど)40点 授業参加態度(授業態度やグループワーク参加態度など)10点		
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。				
授業計画	1 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介 2 ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。 3 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 4 ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 5 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。 6 産学連携週 7 ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 8 ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。 9 ・泌尿器系、内分泌、生殖系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・腎臓、ホルモン、生殖器、排泄(排尿、排便)など。 10 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。 11 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。 12 産学連携週 13 ・悪性腫瘍、障害など。 14 ・院内保育、病棟保育士など 15 定期試験				
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版				
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。				

担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	60 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養		必修 講義	講 師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。				
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等				
到達目標1	子どもが成長するために食生活が重要であることを理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席、授業態度および課題の提出状況などで評価(50点)		
到達目標2	正しい栄養の知識を身につけ、発育期の子どもに対する栄養の特徴を理解する。児童福祉施設などの食育を理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況および定期テスト(50点)		
授業方法	教科書や参考文献のプリントでの講義。 課題に対してのグループ討議をする。				
授業計画	1 子どもの心身の健康と食生活について				
	2 子どもの食生活の現状と課題				
	3 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義				
	4 たんぱく質の代謝と栄養学的意義				
	5 脂質の代謝と栄養学的意義				
	6 産学連携				
	7 ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 日本人の食事摂取基準、食品群について				
	8 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活				
	9 離乳期の栄養と食生活				
	10 幼児期の栄養と食生活				
	11 幼児期の食生活上の問題				
	12 産学連携				
	13 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活				
	14 食育の基本と内容 保育所における食育推進の計画、実施、評価				
	15 まとめ 試験				
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院				
参考文献	その時々参考になるものを紹介				
担当教員の専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関しての研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にしての栄養相談。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 講義	講 師	今泉 良一
授業概要	「保育とはなにか」「保育内容とはなにか」、保育現場で必要とされる基礎的知識を学ぶ。また、子どもの発達を捉えた保育内容について理解を深める。				
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。保育内容について、基礎的知識を理解し、説明することができる。				
到達目標1	保育内容について、基礎的知識を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点)		
到達目標2	乳幼児期の発達を理解し、製作、実践を通して、必要な技術を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点) ※短大レポート提出は単位取得必須事項とする。		
授業方法	①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。 ②実践的な内容を演習形式で体験的に学習する。				
授業計画	1 ガイダンス 保育内容とはなにか				
	2 保育所の環境について学ぶ。				
	3 保育所の一年について学ぶ。～季節の行事と由来				
	4 保育所の日について学ぶ。～登園から降園まで				
	5 保育者の仕事内容について学ぶ。				
	6 産学連携				
	7 3歳未満児の保育内容と手作り教材				
	8 3歳以上児の保育内容と手作り教材				
	9 レポート対策～子どもの非認知能力について				
	10 レポート作成①				
	11 レポート作成②				
	12 産学連携				
	13 保育内容の現代的課題				
	14 短大試験対策				
	15 期末試験				
必須テキスト	短大指定テキスト				
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介する。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。研究領域は、保育史、保育思想、保育カリキュラム。著書に「0・1・2歳児の連絡帳選べる書き方&文例集」(チャイルド本社)の他、保育雑誌の連載、Web記事の執筆なども行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	浦 啓子、大須賀 かおり、竹田 えり、国友 真知子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンかヘッドフォンを持参してください。(備え付けは行いません)				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン／B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン／B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン／B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン／B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 Aピアノ等による個人レッスン／Bわらべ歌・手遊び歌の演習 8 Aピアノ等による個人レッスン／B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 Aピアノ等による個人レッスン／B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン／Bリトミックを含む歌遊びの演習 11 Aピアノ等による個人レッスン／B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 Aピアノ等による個人レッスン／B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(AB共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 講義	講 師	加藤 ふじこ
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	授業に参加し、理解する。そして授業時間内に制作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への参加、取り組んだ内容、回数で評価する。 (常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点＋創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		作品提出 (作品を撮影しteamsに画像を提出、提出回数やコメント、締切日厳守で評価) 45点＋その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)*社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール こいのぼり制作				
	2 フロッタージュを用いた制作				
	3 デカルコマニーを用いた制作				
	4 自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、授業の順を入れ替えることもある)				
	5 <講義1>幼児画特徴について:記入プリントあり				
	6 産学連携				
	7 ○△□を組み合わせた制作				
	8 紙コップを用いた工作				
	9 色の基本、貼り絵制作				
	10 にじみ絵、はじき絵制作				
	11 <講義2>幼児画の発達段階について:記入プリントあり				
	12 産学連携				
	13 ひっかき絵制作				
	14 紙の加工、ハサミの使い方				
	15 スタンプを使った制作				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	なかむら:絵本作家、イラストレーター 川原:児童教育全般、小学校講師 加藤: 絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅰ		必修 講義	講 師	向井 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育Ⅰでは、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。				
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテスト(30点) ワークシート(授業態度を含む)(20点)		
到達目標2	2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテストにて、自分の言葉で「愛着」や「安全基地」とは何かを説明する。(30点) ワークシート(授業態度を含む)(20点)		
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり				
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。				
	2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。				
	3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。				
	4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るようになります。				
	5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。				
	6 できれば乳児保育(0歳児、1歳児、2歳児クラス)で子どもがどんな遊びをしていたか、どんな様子だったか、について観察してきてもらえたらと思います。				
	7 0～3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。				
	8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。				
	9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラムについて、具体的に見ながら、同時に職員の勤務体制についても考えてみましょう。				
	10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。				
	11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。				
	12 子どもと保育者が関わる場面から、「愛着」というものを感じたり、年齢が低いながらも夢中で遊ぶ子ども、それを支える保育者のかかわりに注目してみましょう。				

	13 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のもので読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。				
	14 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のもので読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。				
	15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどのようなものか、具体的な例を用いて説明する ※教科書やプリントの持ち込みは不可。自分でまとめたノートなどは持ち込み可とする				
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷真弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房				
参考文献	授業中に紹介				
担当教員の専門分野等	保育者の専門性について研究しています。 とくに子どもと保育者が実際にかかわっている相互行為において生じる専門性の研究をしています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全 必修 講義		講 師	竹内 麻貴	
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50%)		
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業参加態度(演習態度10%、授業態度10%) ・提出物(課題、リアクションペーパーなど)(30%) 合計50%		
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・救急、応急処置法は演習を中心に行う。				
授業計画	1 子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。 2 子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 3 子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。 4 実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。 5 けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携週 7 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 8 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 9 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 10 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。 11 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。 12 産学連携週 13 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 14 授業全体をふりかえる。 15 筆記定期試験を行う。				
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規				
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布				
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
キャリア教育	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2024年度 講義要綱

科 目	子どもと保育		選択必修 講義	講 師	石原 成
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。				
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。				
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)		
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点),課題(15点),提出物(15点)		
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。				
授業計画	1 オリエンテーション:授業のルールと自分が学ぶべきことを理解する				
	2 保育園の環境と一日の流れを理解する				
	3 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義①」				
	4 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義②」				
	5 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義③」				
	6 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義④」				
	7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする				
	8 スケッチブックシアター制作(1) 構成を考える、下書きをする				
	9 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする				
	10 スケッチブックシアター制作(2) 色を塗る				
	11 産学連携 保育所見学①保育園の環境				
	12 産学連携 保育所見学②子どもを観察する				
	13 保育所見学振り返り				
	14 スケッチブックシアター制作(3)発表練習				
	15 実習データーDXを実際に経験しながら実習への知識を増やす				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防の為必ずイヤホンやヘッドフォンを持参してください。（備え付けはありません）				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン／B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン／B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン／B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン／B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 Aピアノ等による個人レッスン／Bわらべ歌・手遊び歌の演習 8 Aピアノ等による個人レッスン／B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 Aピアノ等による個人レッスン／B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン／Bリトミックを含む歌遊びの演習 11 Aピアノ等による個人レッスン／B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 Aピアノ等による個人レッスン／B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(AB共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	ゼミナールⅠ			選 択 講 義	講 師	遠藤 祐太郎、今泉 良一、竹島 孝昭
授業概要	「どこ行こう?」「なにをしよう?」 友達や先生と一緒に“わくわく”しよう! ①「もぐもぐ」食べる 子どもと楽しく食べるを体験しよう 担当:今泉 ②「のびのび」動く 子どものアクティビティを体験しよう 担当:竹島 ③「見る聞く」触れる 子どものスキを体験しよう 担当:遠藤					
授業目標	・実体験を通して、幅広い視野を持つことができる。 ・積極的な学びを通して、保育者に求められる協働の態度や豊かな感性を養う。					
到達目標1	各自の興味関心に基づいて調べ学習を行い、得られた内容を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		課題提出(50点) ※前期ゼミ、後期ゼミ、合算評価		
到達目標2	校外学習を通して、さまざまな事象に関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		写真撮影(50点) ※前期ゼミ、後期ゼミ、合算評価		
授業方法	・本科目は前期7コマ、後期8コマの通年科目である。 ・各自の興味関心に応じて、前期後期それぞれ1つつつゼミを選択する。 ・校外学習など、各ゼミ受講者の関心、希望によって授業内容を組み立てる。					
授業計画	1 【前期】オリエンテーション(授業の概要とねらい)					
	2 【前期】事前学習(1)					
	3 【前期】事前学習(2)					
	4 【前期】校外学習					
	5 【前期】校外学習					
	6 【前期】校外学習事後課題					
	7 【前期】前期のまとめと後期に向けて					
	8 【後期】オリエンテーション					
	9 【後期】事前学習(1)					
	10 【後期】事前学習(2)					
	11 【後期】校外学習					
	12 【後期】校外学習					
	13 【後期】校外学習事後課題					
	14 【後期】後期のまとめ					
	15 【後期】1年間のふりかえり					
必須テキスト	特に指定しない。					
参考文献	その都度、指示する。					
担当教員の専門分野等	遠藤 祐太郎、今泉 良一、竹島 孝昭 「実務経験のある教員による授業」に該当する。					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %		
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %		
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %		

2024年度 講義要綱

科 目	保育の現場活動 講義		講 師	石原 成
授業概要	・保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのかを知り、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。 ・保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。(該当科目3コマ)			
授業目標	・保育現場活動を通して自分の課題と目標を意識する。 ・実習に向けて必要なものを準備し、実習への見通しをもつ。 ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」飯田有美) ・子ども達の興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」)細江幸世 ・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」)近藤千春			
到達目標1	・保育の本質、目的、意義を知り、保育者の意図を意識できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)	
到達目標2	実習に向けて必要なものを準備し、実習への見通しをもつことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	見学ポスターの作成と発表(30点) 実習自己開拓用紙提出(20点)	
授業方法	・講義・演習(グループワーク)および実技を中心とした授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、成果発表会行う。			
授業計画	1 オリエンテーション 前期の現場活動を振り返る			
	2 保育園の環境構成を知る			
	3 実習準備 日誌の記入の仕方(1) 環境構成図の記入の仕方と意味			
	4 実習開拓 保育所の種類と特色を知り、自己開拓をする(1)			
	5 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世			
	6 実習準備 日誌の記入の仕方(2) 活動を時系列でとらえる			
	7 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春			
	8 実習開拓 幼稚園の種類と特色を知り、自己開拓をする(1)			
	9 実習開拓 幼稚園の種類と特色を知り、自己開拓をする(2)			
	10 保育の現場活準備			
	11 産学連携 保育所見学① 園内の環境を観察する			
	12 産学連携 保育所見学②子どもを観察する			
	13 保育所見学振り返り(1) 気づいたこと、感じたことを表現する			
	14 保育園の1年を知る(1) 4月から9月			
	15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:飯田有美			
	16 保育園の1年を知る(2) 10月から3月			
	17 今までの保育の現場活動を通して自分の考えをまとめる			
	18 ポスター作成(1)			
	19 実習生に求められるマナーとは			
	20 ポスター作成(2)			
	21 現場活動中の自分の行動を振り返り、次回の活動に生かす			
	22 保育現場活動準備			
	23 産学連携:保育現場活動 保育参加 保育士を観察する			
	24 産学連携:保育現場活動 保育参加 保育士と子どもの関わりを観察する			
	25 保育参加振り返り 保育士と子どもの関わりから気づいたことをまとめる			
	26 実習準備 エプロン名札つけ			
	27 実習準備 お礼状の書き方スケッチブックシアター			
	28 実習準備 様々な保育教材を知る ペープサート、パネルシアターなど			
	29 保育現場活動 ポスター発表 友達の発表を聞き今後の実習に活かす			
	30 まとめ			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	特に指定なし			

担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。 ○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者 ○飯田有美:図書館や学校等においてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2024年度 講義要綱

科 目	教育課程総論		選択 講義	講 師	小澤 由理
授業概要	本科目は、幼稚園（認定こども園）や保育所の教育（保育）の意義や役割を理解し、その全体的な計画を表す教育・保育課程と指導計画について理解をする。次に日本と諸外国の幼児教育（保育）カリキュラムの思想と歴史を学ぶ。最後に、保育におけるカリキュラム評価とその方法や教育保育課程編成の今日的課題を検討する。				
授業目標	・教育課程・保育課程の意義や役割について理解する。 ・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に理解する。 ・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を学ぶ。 ・教育課程・保育課程を編成するための手順、留意事項および評価・改善の方法について説明できる。 ・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を理解できる。				
到達目標1	・幼稚園教育要領の改訂の変遷と内容の変化を理解し、教育課程の全体像を掴む。 ・教育課程の編制を理解するとともに、今日的な教育課程の課題について理解をする。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	授業への取り組み（20％）＋テスト対策や小課題（30％）		
到達目標2	教育・保育課程に関する正しい知識を踏まえて、具体的な保育場面を想定した自らの考えを示したり、自らの関心で調べたことをレポートにまとめることができる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	レポート2本の下書き（50％）		
授業方法	教科書を使用した講義形式が主に、パワーポイントを用いたプリントの配布および、ワード機能の活用やグーグルフォームを通じた課題提出などがある。				
授業計画	1 オリエンテーション 教育課程・保育課程とは 2 教育課程・保育課程の意義、レポートのルール 3 教育課程・保育課程編成の留意点 4 教育課程・保育課程の評価と改善 5 【オンライン】レポート作成① 6 産学連携 7 幼稚園教育要領と保育所保育指針の概要、幼稚園教育要領の変遷 8 レポート返却、解説、修正 9 保育所保育指針の変遷 10 指導計画の種類、意義、計画の際の留意点 11 【オンライン】レポート作成② 12 産学連携 13 テスト対策 14 テスト 15 まとめ				
必須テキスト	金岩俊明、田中亨胤、和田真由美（2020）『教育課程論』豊岡短期大学通信教育部 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
参考文献	適宜、提示する。				
担当教員の専門分野等	西洋および日本の女性教育史についての研究。保育実習指導に関する研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育に生かすやさしい手芸		選択 講義	講 師	酒井 暢子、高田 ちとせ
授業概要	軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をする。作品を保育の現場で生かせるように、わらべうた、童謡、詩などに合わせた演目で演じ方や遊び方を学ぶ。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(該当科目1コマ)				
授業目標	手縫いの基礎及び制作技術を習得する。手作りの人形を使って動かし方の基本を学び、子どもとのコミュニケーションの道具として活用できるようにする。 「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(認定:「おはなし会の手法②」)				
到達目標1	毎回の授業で紹介される様々な手縫いの技法を理解し、実践することができる。 6つの作品を完成させながら、制作技術を習得する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	制作への取り組み度(20点)、作品提出(30点) 【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となる。		
到達目標2	保育活動を想定した作品の生かし方を学び、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実演への取り組み度(25点)、発表・レポート(25点)		
授業方法	オリジナルの材料キットを用いて作品を制作。作品の生かし方や応用のアイデアを紹介し、実技指導を行う。 【認定絵本士養成講座科目】では制作した作品を「おはなし会」で活用できるように、演習を行う。				
授業計画	1 手縫いの基礎①、「グラブ人形 指ぶた」制作① 2 「グラブ人形 指ぶた」制作② 3 「グラブ人形 指かえる」制作① 4 「グラブ人形 指かえる」制作② 5 「グラブ人形 指ぶた、指かえる」演じ方練習と演技発表 6 産学連携 7 「ハンカチ人形」制作① 8 手縫いの基礎②、「ハンカチ人形」制作② 9 「ミトン人形 くま」制作① 10 「ミトン人形 くま」制作② 11 「ハンカチ人形、ミトン人形 くま」演じ方練習と演技発表 12 産学連携 13 「ことりん」制作 14 「ことりん」演じ方練習と演技発表 【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②(おはなし会のテクニック)「おはなし会」のテクニックの理解と演じ方練習 担当:高田ちとせ 15 「ひまわりブローチ」制作 応用例の紹介				
必須テキスト	特になし 授業時に資料を配布 【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献	『お話し会で楽しむ手ぶくろ人形』保育と人形の会/編著 児童図書館研究会/刊 『手ぶくろ人形の部屋』高田千鶴子/著 偕成社/刊				
担当教員の専門分野等	子どものための手作り人形など、作品の創作と演目の実践。 【認定絵本士養成講座】高田ちとせ:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	75 %	